

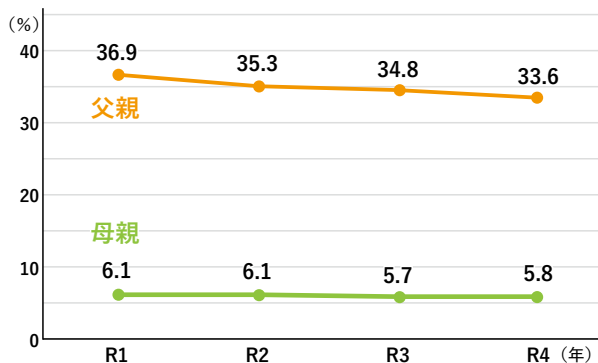


みんなで止めよう! 最初の一本!

発育期の細胞は感受性が高いため、喫煙開始年齢が早いほど、健康被害が大きく、ニコチン依存も強くなると言われています。ニコチン依存が強くなると、よりタバコをやめにくいと考えられています。また、妊婦本人の喫煙が早産や子どもの低出生体重、発育の遅延につながることも明らかになっています。

家族、特に親が喫煙する姿を子どもに見せることは、子どもの喫煙に対する抵抗感を弱め、将来の喫煙行動に向かわせると考えられています。まず、親が喫煙をやめることで、次世代の子どもたちへの健康影響への悪い連鎖を断ち切りましょう。

育児期間中の両親の喫煙率 (乳児前期、1歳6か月、3歳時健診)



なくそう! 望まない受動喫煙!

本人は喫煙しなくても、身の回りのタバコの煙を吸わされてしまうことを受動喫煙といいます。副流煙*には発がん性物質やニコチン、一酸化炭素などの有害

物質が主流煙*の数倍含まれていると言われています。妊婦や子どもへの影響はさらに大きく、特に、子どもがいる場所ではタバコを吸わないことが大切です。

主流煙*... 喫煙者が吸うタバコの煙
副流煙*... タバコが燃えている部分から出る煙

喫煙・受動喫煙対策をもっと知りたい方は、こちらをご覧ください。



沖縄県
ホームページ



厚生労働省
ホームページ



屋外や住宅部分での喫煙でも 配慮義務があります!

健康増進法では、「喫煙者の配慮義務」が、明記されています。屋外での喫煙はもちろんのこと、庭やベランダなどでの喫煙も近隣の迷惑になっている可能性がありますので、風向きなど考慮し、周囲へ煙が流れないように配慮する必要があります。

加熱式タバコにも要注意!

最近は紙巻きタバコに代わり、加熱式タバコ・電子タバコといった、いわゆる「次世代タバコ」が普及しており、既に市場の3割は次世代タバコに移行していると言われています。

ニオイが少なく手軽に喫煙できるイメージが先行していますが、ニコチンや多くの化学物質が含まれているため、健康への悪影響が否定できません。

問い合わせ

健康長寿課 電話：098-866-2209 FAX：098-866-2289

広告

